

## 日本小児歯科学会九州地方会 創立 30 周年によせて



日本小児歯科学会九州地方会 副会長 **奥 猛 志**

久芳陽一会長のもと、日本小児歯科学会九州地方会副会長をさせていただいております、鹿児島市開業の奥猛志と申します。

九州の小児歯科学会会員数の現状ですが、2013年2月18日現在、正会員数が524名（全国の総数は4290名）です。これは九州の歯科医師の約5%が小児歯科学会に入会していることとなります。全国での本会入会率は約4%ですので、九州の歯科医師は小児歯科に関心が強いと言えるのではないのでしょうか。また、小児歯科専門医（専門医指導医も含む）は150名と学会員の29%です。これも全国の27%より高く、九州の歯科医師は小児歯科学会に入り、さらに研鑽を深めたい先生方が多いことの現れです。歯科衛生士会員数も41名と全国の歯科衛生士会員の16%、認定歯科衛生士14名は全国の認定歯科衛生士の15%を占めます。

日本小児歯科学会の広報委員会委員長として本会理事会等に参加すると、他の地方の先生方から「九州の小児歯科はとても元気で全国的にもご活躍されている方が多い」と羨ましがられます。そして「大学と開業医がとても良好な関係を築いている」とも言われます。この状況をこれからも継続していきたいと思えます。

さて、平成23年10月9日、10日の両日に九州歯科大学にて開催された第29回日本小児歯科学会九州地方会では大会長を務めさせていただきました。本大会は平成23年度日本小児歯科学会中四国・九州地区合同地方会として開催されました。早くから中四国地方会の犬野秀夫大会長と「地方会の枠を超えて楽しい学会にしたい」という構想を抱き企画した日本小児歯科学会初の合同地方会でした。メインテーマは「未来を担う子どもたちの笑顔のために」としました。

合同企画「小児歯科の未来への提言～これからの小児歯科医療政策を考える～」では、医師でもあり当時の櫻井充財務副大臣に基調講演をいただき、歯科医師で参議院議員の大久保潔重氏、西村まさみ氏、日本歯科医師連盟評議員の犬塚勝昭先生をシンポジストにお招きし、日本小児歯科学会常務理事の品川光春先生のコーディネートのもと、小児歯科医療の未来について議論しました。学会で政治家が講演することについては、学術的な内容から逸脱するのではないかとのご意見もありましたが、学会もこれからの医療行政を見据えた活動を行う必要があるとの趣旨からの企画でした。

その他、シンポジウムでは「子どもの事故と小児歯科」、特別講演では「幼小児期における口腔機能障害の診断と矯正治療について」、コデンタルセミナーでは「自閉症スペクトラム児者への医療支援－障害特性に寄り添う工夫－」など、臨床に直結した多くの企画をいたしました。多岐にわたる企画、多くの講演、そして展示発表の演題数は69題を数え、両日での参加者は600名を超え、盛会裏に終了することができました。

このような大会を開催できたのは、鹿児島大学、広島大学、九州歯科大学関係者、そして開業医の皆さまのご協力の賜物です。

今後、学会員も開業歯科医が増大していきます。これからは、大学と開業医とがより連携していくことで九州地方会が発展していくと考えます。